

# 名城大学 第23回 FD・SD フォーラム

日時：2021年11月4日(木) 13:30~16:00

方法：ZOOMによるオンライン

テーマ：内部質保証の実質化と恒常化を目指して  
—認証評価を目前に考える—

近年の科学技術の一層の発展、産業構造の変化、社会から求められている人材の変化等により、大学における学位の質や学修成果は今まで以上に重要視されています。大学には教育の質が一定水準にあることをステークホルダーに客観的に説明するとともに、教育の質向上を継続的に行うことが求められています。

第三期認証評価のポイントは「全学的な内部質保証システムの構築」であり、大学における教育・学修活動、活動の検証、検証結果を踏まえた改善プロセスの適切な展開と運営は、大学の歴史、規模、分野などの特性に応じて異なるため、各大学ならではの仕組みとプロセスが求められています。

本フォーラムでは、教職員が認証評価を通じて内部質保証の全体像と本質を理解するとともに「アクティブ・ラーニング」、「ルーブリック評価」など様々な取り組みについても、改めて考える機会を提供します。



## 基調講演

### 「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」

田代 守氏 (公益財団法人大学基準協会 評価研究部 部長)

## 【申込方法】 (定員：300名)

下記 URL または QR コードからお申し込みください。お申し込み後、参加方法の詳細が自動メールにより送付されます。

<https://us06web.zoom.us/join/register/tZMucu6qrDsiHNCqSw62WJDeOefiKhbKc6B5>



## 事例報告

### 「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」

栗本 英和氏 (名古屋大学教養教育院 教授・副院長 (質保証担当))



【お問い合わせ先】名城大学 大学教育開発センター

E-Mail : [edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp](mailto:edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp)

TEL : 052-838-2032 (内線 : 2653)

## 第23回FD・SDフォーラム企画 「内部質保証の実質化と恒常化を目指して-認証評価を目前に考える-」

### 1. 実施概要

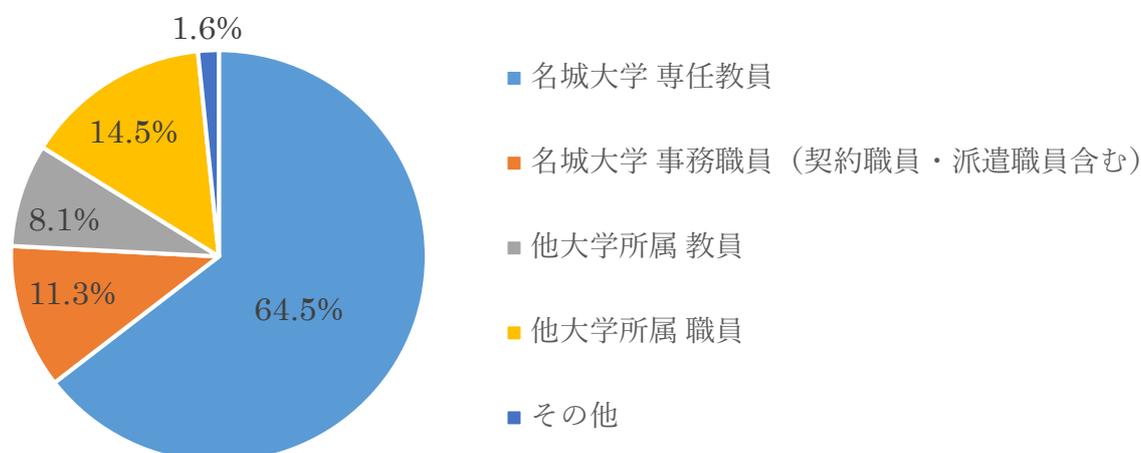
- 日 時：令和3年11月4日（木）13：30～16：00
- 場 所：Zoomによるオンライン開催
- 基調講演 テーマ：内部質保証の実質化と恒常化を目指して
- 基調講演 講師：田代 守 氏（公益財団法人 大学基準協会 評価研究部 部長）
- 事例報告 テーマ：プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証
- 事例報告 講師：栗本 英和 氏（名古屋大学 教養教育院 教授・副院長（質保証担当））
- 参加者数：193人  
（本学専任教員 88人、本学事務職員 24人、他大学教員 23人、他大学職員 42人、その他 16人）

### 2. アンケート方法等

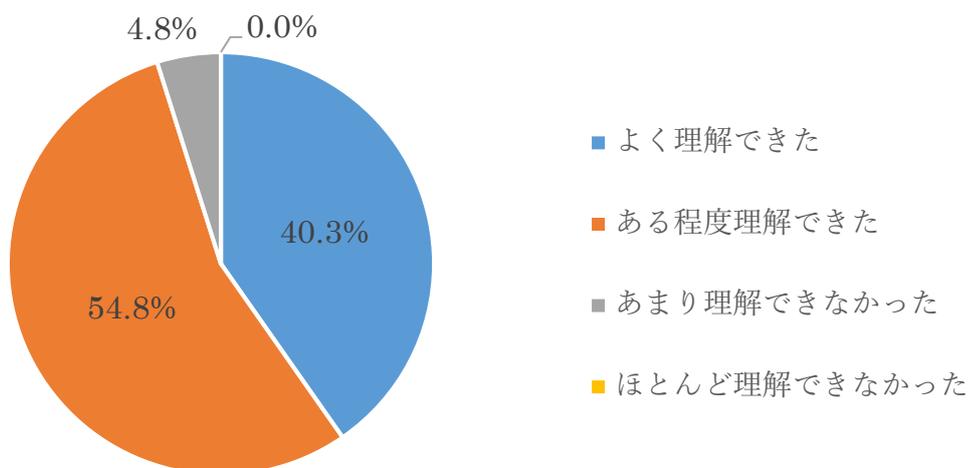
- アンケート方法：Google フォーム
- 質問項目：以下のとおり
  - ①所属をお知らせください
  - ②基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」の内容は、理解できましたか？
  - ③基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」の満足度について教えてください。
  - ④基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
  - ⑤事例報告「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」の内容は、理解できましたか？
  - ⑥事例報告「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」の満足度について教えてください。
  - ⑦事例報告「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
  - ⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください
- 回答者人数：62名
- 質問④、⑦、⑧について主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

### 3. アンケート結果

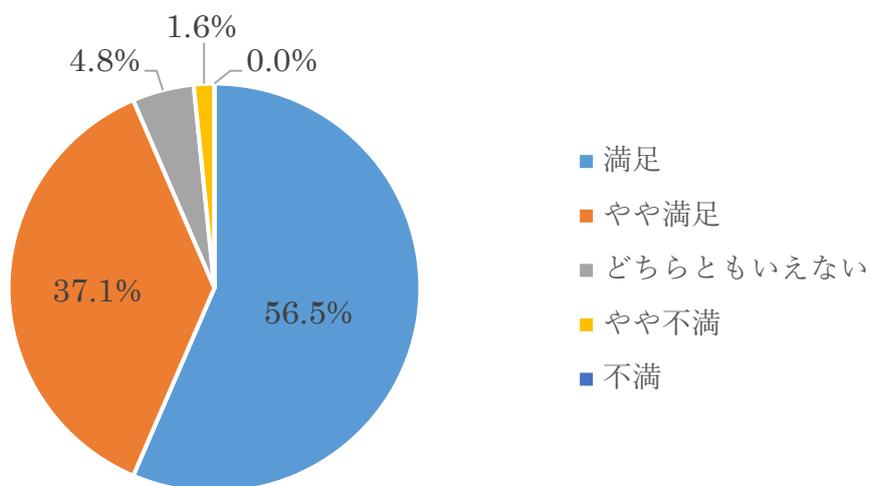
①所属をお知らせください。



②基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」の内容は、理解できましたか？



③基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」の満足度について教えてください

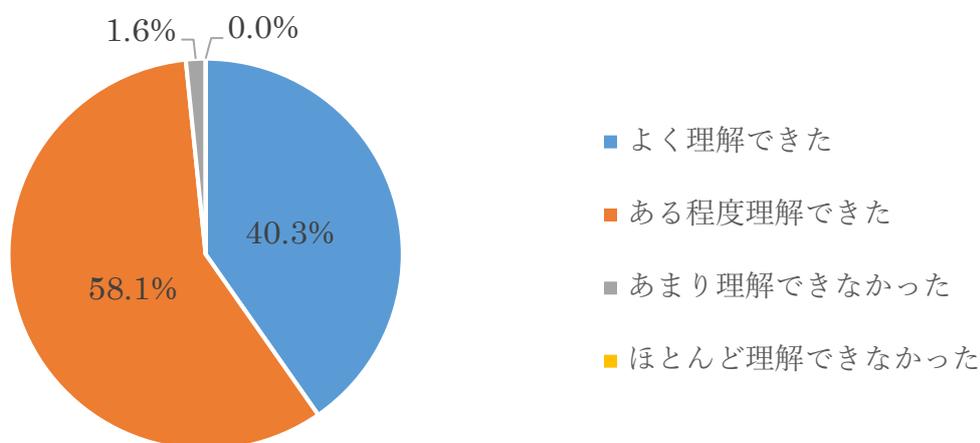


④基調講演「内部質保証の実質化と恒常化を目指して」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

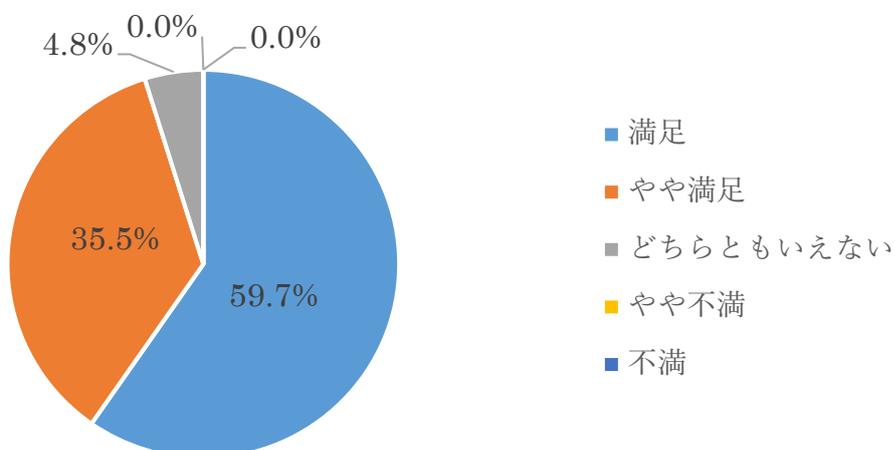
- ・ 評価と保証の継続性関連性
- ・ 大学の自治と第3者評価の関係がはじめて理解できた。
- ・ 大学の多様性を考慮した評価。
- ・ スライド15頁の全学的観点からの評価について、学部学科の評価を集約ではなく、総括すること
- ・ PDCAサイクルを上手く取り入れていくことが大事だと感じた。

- ・内部質保証の定義
- ・質を向上させるプロセスそのものが質保証であると考えていろいろわかりました。
- ・機械的に PDCA サイクルを回すのではなく、目的（検証結果をちゃんと改善に結びつけ、学生の教育に結び付けていくこと）を意識して PDCA サイクルを回すことが、内部質保証の実質化、継続にとって重要だと感じた
- ・やらされる過酷な評価作業ではなく、日々先生方があたりまえのように、よりよい働き方を目指して行われている取り組みの集積が大事なのだと確認することができ、とても勉強になりました。

⑤事例報告「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」の内容は、理解できましたか？



⑥事例報告「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」の満足度について教えてください



**⑦事例報告「プログラムレベル、授業レベルで考える内部質保証」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。**

- ・概念を表す言葉について、共通理解が乏しく、言葉に振り回されている面があるとの指摘は、目からうろこでした。共感します。
- ・内部質保証で用いられる外国語と日本語のあいだの「ズレ」を自覚的に把握するという点は重要な観点であると思います。
- ・シームレスな PDCA サイクル
- ・シラバスからの点検の必要性和、授業内の中で PDCA という考え方が適応されるという発想がなかったの  
で、今後はそのように考えてシラバスを作成していきたいと思う。シラバスの中で、予習・復習などを時間  
だけは記入していたが、具体的にどのようなものをする必要があるかを記述すると良いと思った。
- ・教育の質保証システム 3層構造での質確保
- ・「標準化など、持続可能な形に軽量化する」という考え方がとても勉強になりました。実際に担当者は人事  
異動などで変わりますので、保全、保守しやすいしくみをつくっていくことは非常に重要だと思います。あ  
と、評価を「やらされる作業」ではなく、「課題抽出」のためにやることだととらえることは、モチベーシ  
ョンを維持するうえでもポイントだと思いました。
- ・これまでに受けた中で最もわかりやすく、疑問や誤解を解消してくれるお話でした。
- ・SDCA、PDSA サイクルという考え方は重要であると感じる一方、内部質保証サイクルにどのように組み込むの  
か、使い分けが難しいと感じました。
- ・外部評価、内部質保証の起点が、大学の自治を重視するために大学の設立理念があるという点。

**⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください**

- ・こういうことに対するマインドが若干変わりました。
- ・PDCA は、Do - CAP のような方法でも達成可能という点は、我々にとっても馴染みやすいものと感じました
- ・内部質保証に関する仕組みは理解できつつあるので、測定方法等の具体的な PDCA における CA の箇所に関す  
る企画の検討をお願いできればと思います。今日はありがとうございました。
- ・今回の内容について、現実にあてはめるとどうなるのか、どうしていけばいいのかをもっと考えていかない  
といけないと思いました。実際にどうしていけばよいのか等について考えをめぐらすことが可能になった内  
容ですので、今回の企画を拝聴できてとても満足しております。質保証について、今後もこのような企画が  
ありましたら大変ありがたいです。本日はありがとうございました。
- ・両方のご講演とも次年度に向けた学部の今後の取り組みに対して大変重要なご示唆をいただきました。本日  
の内容をぜひ学部内でも広く共有していきたいと存じます。

以上